

# 眼

五年

回数 11  
筆順

目 眵 眵 眼  
ガン・ゲン  
まなこ

成り立ち



「見(見) (1年21)」が「前を見る」形であるのに対し、「後ろを見る」形を表した「良」と、「目」とを組み合わせて作った字です。

「後ろを見る」とは、よく目を働かせることを表したものです。「目」が単なる「目」という物「を表した字であるのに対して、「眼」は、「見る働きをもった物としての目」を表した字です。【例】眼力、眼識、眼前(物を見ているその目の前)。また、「大切な所」という意味に使うことがあります。【例】主眼、眼目。

「まなこ」は「目な子」ということで、「め」が「ま」に変わり、「の」が「な」になったものです。「子」は「……という物」の意味で、「目」という物」という意味の言葉です。

使い方

▽ぼくの先生の眼力はすごいです。ぼくが授業中いたずらをしていると、すぐ見破ってしまいます。だからぼくは、先生に叱られないように、まじめに勉強するようになりました。

▽この文章の眼目は、いかに上手に草花を育てるかにあります。どうやったら、しろうとでもうまく花を咲かせることができるかに主眼をおいています。

熟語例

▽眼力(物の事を見通す力。物の善悪などを見分ける力のことです。)

▽眼識(物の善悪や優劣を見分ける力。「眼力」と同じ意味の言葉です。「あの人は本に関する眼識がある」などというふうに、つかえます。)

▽主眼(物事の一番大切な所。)

▽眼目(「主眼」と全く同じ意味です。)

▽具眼(眼力、眼識を備えていること。物を見分ける確かな目を持っている、という意味です。「さすがにあの人は具眼の士だ。こうなると予言した事が、びたりと的中した」などというふうに、つかえます。)

# 基

五年

回数 11  
筆順

一 廿 廿 其 其 基  
オン キ  
クン もと・もとい

成り立ち



殺物の殺と実とを振り分ける道具を「箕」と言いますが、昔の字は「其」で、音はキです。形が四角なので、四角の形をした物を表すのに、「其」を使います。

「其」と「土」とを組み合わせて作った字ですから、「四角形の土地」という意味の字です。「家を建てるための土台(基礎)と言います」を表した字です。

土台がしっかりしていて初めて建物が安定します。ので、何事によらず、「物事のより所となるもの」を「基」と言うようになりました。「もと」と、または「もとい」と言います。

「旗(481)」は、四角形の「はた」です。「碁」は碁盤が四角です。白と黒の石を使って遊ぶものです。

使い方

▽運動でも勉強でも、基本が大事です。基礎がしっかりしていないと、その上に積み重ねて伸びて行くということができません。どんな名選手でも、大学者でも、最初は地道な努力を重ねて基本をしっかりと身につけたから、偉大になったのです。

▽基本(物事の根本となるもの。物事のよりどころとなるもの。「あの選手のプレーは、基本に忠実だからミスが少ない」などというふうに、つかえます。)

熟語例

▽基礎(もともとの意味は、「土台」という意味です。「ビル」の基礎工事が始まった」などというの、これです。また、そこから、広く、物事のよりどころ、根本となるもの、の意味にもつかえます。「基本」と同じ意味です。「基礎をしっかりと勉強しておく、先へ行ってから楽だ」などというふうに、つかえます。)

▽基地(物事を行うよりどころとなる土地。根拠地。「南極観測の基地が設けられた」などと、つかえます。)

▽基金(事業など、ある目的のためのよりどころとなる資金)

▽基

▽運動でも勉強でも、基本が大事です。基礎がしっかりしていないと、その上に積み重ねて伸びて行くということができません。どんな名選手でも、大学者でも、最初は地道な努力を重ねて基本をしっかりと身につけたから、偉大になったのです。